草花で仮名文字ドローイング
―いろイロ「い・ろ・は」をつくってみようー

笠原　彩（和歌山大学教育学部附属小学校）

題材コンセプト

「いろはにほへと」からはじまる日本語のアルファベットは世界で最も美しいと言われている。一般的には無常観を読み込んでいるとされる「いろは歌」として親しまれているが、平安期に成立した漢字文化とは一線を画す日本文化の象徴といってよいだろう。

元来、文字は音声言語の代替物であるが、同時に時空を超えて思念を運ぶ不可思議で魔術的な存在として生まれてくるものだ。どのような文化の文字であれ、当初はそれが記され刻まれる物質性とともに存在するものである。亀甲、獣骨、粘土版、石版・・・それらの物質がやがて滑らかに織りなされた布や紙に進化していく中でそれらの物質性は徐々に失われ、平面的な「かたち」としての性格のみが強く意識されるようになった。この時点ではとりわけペンや筆などの書く道具がそのかたちの造形性に大きな影響を及ぼすことになる。また、それに加えてその描画材と文化が結合して生みだす「字体」「筆法」などが文字の形にさまざまな意味での精神性を加えていくことになる。日本において、平安期に成立する仮名文字の美学は独自の草書体と散らし書きに代表されるような独自の美学を形成した。その美学の背後に日本人の草花に対する強い思いがあることは多くが指摘していることである。草花の図絵と文字が一体化し、混在するこの有り様は日本人の言語観、自然観を如実に表すものであろう。

1．題材について

英語のアルファベットと比較すると、日本の平仮名の線やかたちは繊細で表情豊かである。やわらかで丸みのあるかたち、縦や横のしなやかで力強い線、くるりと結んだ部分は愛らしくもある。

「草書体」は文字を崩して毛筆で書く手書きの書体である。この「草」は「草稿」という意味であるが、草書体のなめらかに続く線は風になびく草を思い起こさせる。平仮名の特性をいきいきした草花の線を生かして、平仮名の線の魅力を表現させたい。

そこで本題材では以下のような事項を体験的に理解させることを目的とした。

1. 文字と物質との深いかかわり。

2. 文字が「線」によって形成されその「線」は深い造形性を持っていること。

3. 文字を構成する「線」と身のまわりのオブジェ（特に草花）の線を関連づけてみること。

2．学習目標（第４学年）

(1) 平仮名の線やかたちのよさや特徴に気付き、楽しんで取り組む。

(2) 平仮名の線やかたちの特徴からイメージをふくらませ、草花等でいろいろな表し方を試す。

(3) つくりたいイメージに合うように草花等でいろいろな線やかたちを工夫してつくる。

(4) 自分や友だちの作品のよさに気付いたり、みんなで協力して「いろは歌」に並べて思いを伝え合う。

3．学習の流れ・指導計画

■第一次：ひらがな誕生のヒミツ。

漢字から生まれたことを知り、「いろは」をみんなで音読したり、字源となる漢字の表（図**1**）を見る。

■第二次：「いろは」を草花や枝でつくろう。

平仮名の線や形の特徴やその文字のイメージを草花などでつくる。

安あ	以い	宇う	衣え	於お				
加か	機き	久く	計け	己こ				
左さ	之し	寸す	世せ	曽そ				
太た	知ち	川つ	天て	止と				
奈な	仁に	奴ぬ	祢ね	乃の				
波は	比ひ	不ふ	部へ	保ほ				
末ま	美み	武む	女め	毛も				
也や		由ゆ		与よ				
良ら	利り	留る	礼れ	呂ろ				
和わ	爲ゐ		恵ゑ	遠を				
无ん								

図1 字源となる漢字の一覧

■**第三次**：草花のいろイロ「いろは」を並べよう。

4．指導のポイント・学びのフォーカス

第一次では、「いろは歌」のをみんなで音読し、その言葉のリズム感や「ゐ」「ゑ」など現在は使われていない仮名文字に気づくようにした。また、自分の名前を平仮名で書き、その横に字源の漢字の表を見ながら漢字に変換するなどして、文字への興味をもたせるようにした。

第二次では、平仮名の「とめ」「はらい」「むすび」「はね」に見られる文字の丸みや短い線や長い線のたわみや力強さ、すっと力の抜ける部分などに特に注目するように心掛けた。それらの文字の特徴と草花や枝、葉の持つ線の魅力を結び付けられるようにすることが肝要である。

一人一文字を選び、その仮名文字の特徴をメモさせて、イメージに合う草花や枝などを校庭で集める。なるべく多様な種類の線を集めるようにする。**A4〜A3** のコピー用紙に、集めた材料で文字の特徴を考えながらセロテープで形づくる。

つくった作品はすぐにデジカメで撮影する。一文字できたら、ペアやグループで残りの文字を順次つくるようにする。データを **A4** でプリントアウトし、ラミネート加工した「いろは」カードをみんなで「いろは歌」になるように協力して並べていく（写真 **1**）。「うわあ、なんかきれい！」というつぶやきが聞こえてきた場面である。

写真1　みんなで「いろは歌」にならべよう。

5．鑑賞と批評

本題材では、広い校庭に生えているさまざまな雑草や落ちている樹木の枝や葉などを採集し、草の香りが図工室いっぱいに広がった環境で活動した。

日常、平仮名そのものの魅力に気付く機会は少ない。草いきれのなかで一文字一文字の線やかたちを丁寧に見て、その魅力をあらためて感じた子どもは少なくなかったようだ。この線は、どの草を使ったらいいか、結びの部分はどうしようか？と試行錯誤する姿が多く見られた。

「た」や「あ」などの横と縦の線はしなやかで力強さがある。「の」や「め」の丸みや払いとは別種の線である。ひとつの文字の中にも、種類の違う線があることに気付き、材料を選んだり組み合わせ方を工夫して文字のイメージをつくることが大切になる。毛筆で書くときのことを思い出すことも線の違いや特徴を草花で表現するときのヒントになったようだ。なめらかに続けなければならない線、線の種類の変わり目などを見極めることは、子どもにとって少し難しい部分でもあり、不自然な継ぎ足しなども見ら

れた。また、細い茎一本で線を描く子どもも多く、文字が弱々しい印象になり、いきいきとした線が表現できなかった。草花の生命力を最大限に生かした線の表現につなげられるよう、もっと支援が必要だったと感じている。

作品は以下の **3** つのタイプに分けられた。

a. 文字のかたちに忠実なもの

b. 線の特徴を捉えて表情をつけたもの

c. 装飾的なもの

a タイプはシンプルな線で表現している。例えば「あ」の場合、縦と横の力強い線を草よりしっかりとした枝で表現している。その線に対して丸みの部分は極端に細い一本の蔓を使っている。デフォルメされているところがこの作品の味になっている。「わ」は枝のかたちをそのまま生かして文字の特徴をよく表せている。丸みのある部分は細い草でやわらかさを表現しようとしている。「の」は「はらい」の部分の草の使い方がうまくできている。

b タイプは、**a** タイプより線の特徴を誇張して表情をつけているものである。「る」は、線の特徴をパーツで細かく分類し、材料も合わせて変えているが、全体にまとまった自然な作品になって

作品「あ」和歌山大学教育学部附属小学校 **4** 年生
指導：笠原　彩**,2011**

作品「わ」「の」和歌山大学教育学部附属小学校
4 年生　指導：笠原　彩**,2011**

作品「る」和歌山大学教育学部附属小学校 **4** 年生
指導：笠原　彩**,2011**

作品「ほ」「ち」和歌山大学教育学部附属小学校 **4** 年生
指導：笠原　彩**,2011**

いる。「ほ」や「ち」もシンプルだが、線の特徴と材料の組み合わせ方をよく考えている。

c タイプは、装飾性を重視した遊び心のあるものである。作品「ゑ」は、いろいろな材料を

作品「ゑ」和歌山大学教育学部附属小学校 **4** 年生
指導：笠原　彩**,2011**

なるべくたくさん使って、華やかに文字を飾ろうとしており、文字とは関係のない背景にまで装飾をしている。文字のつくりには気を遣っており、短い線、丸い線と結び、最後の点、と不自然に途切れることなく繋げてつくっている点がよい。「ろ」も「ゑ」と似ている表現だが、

作品「ろ」「や」和歌山大学教育学部附属小学校 **4** 年生
指導：笠原　彩**,2011**

はじめの横の短い線の枝に蔓草が巻き付いているところがポイントのようだ。枝に巻き付いている蔓を見つけたとき、嬉しかったのだろう。丸みやはらいの表現は弱いが、楽しんでつくっていることがわかる。「や」は、縦の強い線は枝で表現している。点と曲線は葉がたくさんついた装飾的な材料にこだわりを感じる。

いずれのタイプの作品も、平仮名の線やかたちを丁寧に見て、その一文字から受けるイメージや

写真 **2**　床に、いろイロ「い・ろ・は」を並べたよ。

線にぴったりと合う材料をじっくり選んだり、楽しみながら取り組む様子がうかがえた。

最後にできた「いろは」カードを床に並べると、口々に「いろは」を声に出して読んでいた。それぞれ、自分のつくった文字が気に入っている様子で「早く持って帰りたい。」と言う子どももいた。今回は、床に並べてお互いの作品を鑑賞し合って活動を終えた。このカードを使った「ことばあそび」や文字をつかったアートゲームなどを展開できればと考えている。